

## 「信仰—イエスに叫ぶ者—」(要旨)

聖書箇所：マタイ9:27~38

## 【1】 キリストのみわざ

本朝の聖書箇所に登場する2つの癒しの奇跡は、前章から続く奇跡の終盤です。イエスが群衆の前で奇跡を行なわれたのは、ご自身がメシア(キリスト)であることを立証するためでした。

まず「目の見えない二人の人」に注目しましょう。彼らはイエスに叫びながらついて来ました。イエスの周りにいる人々、弟子たちは、そうした行為を快く思いませんでした(マルコ 10:48)。しかしイエスは叫ぶ者たちの信仰を見て、彼らを癒されました。

次は「悪霊につかれて口のきけない人」です。彼は自分でイエスのもとに行けなかったのでしょうか。人々が彼をイエスのもとに連れて来ました。イエスは悪霊を追い出し、口のきけない人はものを言うようになりました。

イエスは、ご自分のみもとに来る人々と向き合い、「…あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒された」(35)のです。神によって造られた被造物のすべては罪ゆえに滅びの束縛の中でうめいています。そうした世において、イエスは病を癒し悪霊を追い出し、「神のかたち」としての姿を回復させて下さいました。それを見た群衆は「神をあがめ」(8)、その出来事は「地方全体に広まり」(26,31)しました。

## 【2】 イエスは「ダビデの子」

イエスのなされた奇跡を見聞きした全員がそれを「キリストのみわざ」(11:2)と受け入れたわけではありませんでした。パリサイ人は「彼は悪霊どものかしらによって悪霊どもを追い出しているのだ」(9:34)と罵りました。「牢獄でキリストのみわざ」(11:2)を聞いたバプテスマのヨハネでさえも、「おいでになるはずの方はあなたですか。それとも、別の方を待つべきでしょうか」(3)とイエスに問いました。それに対してイエスは「目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、…貧しい者たちに福音が伝

えられています。だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」(5~6)と旧約聖書の預言(参照:イザ 35:5~6)を引用し、ご自身がメシアであると述べました。この時点でそのことを一番よく知っていたのが、二人の盲人でした。「ダビデの子よ」(9:34)とは、イエスのことを約束された救い主キリストという呼びかけでした。マタイは叫ぶ者が「二人」いたと記録します。ユダヤの律法で証言と認められる人数です(26:60)。

彼らはイエスが「ダビデの子」キリストであることの証言者であったのです。

## 【3】 宣教に駆り出すもの

何がイエスを宣教に駆り出したのでしょうか。それは、群衆に対する深いあわれみでした。イエスは羊飼いのいない羊の群れのように「弱り果てて倒れていた」群衆を見て、「深くあわれまれ」(36)しました。

「エフライムは、わたしの大切な子、喜びの子なのか。わたしは彼を責めるたびに、ますます彼のことを思い起こすようになる。それゆえ、わたしのはらわたは彼のためにわななき、わたしは彼をあわれまずにはいられない。——主のことば——」(エルミヤ 31:20)

『『神の痛み』は『神の愛』に一旦すでに背いている者への愛』(北森嘉藏『神の痛みの神学』)

「弱り果てて倒れていた」者は、福音を必要とします。イエスはそうした人々が大勢いることを弟子たちに伝えます。「収穫は多いが、働き手が少ない」(37)。

神はこの世界の痛みとうめきに対して「深くあわれまれた」のです。私たちが「神のかたち」として造られた目的に生きることができるよう、罪からの救い主をこの世に送られました。神の「深いあわれみ」を知った者は、収穫のための働き手として、福音を知らない人に、福音を届け

る役割を担うのです。

